



きらきら Eye Land

JA庄内みどり

安全・安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第7号

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

今が作溝・中干しの時期！ 適期の作業で健全な稲体づくり！！

6月11日発表の仙台管区気象台1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並～多い、日照時間は平年並の予報です。今年は移植後の気温が高く経過し、全体的に生育が進んでいるため、茎数は例年より多い傾向にあります。

有効茎数の8割を確保でき次第、作溝・中干しの確実な実施により根張りを良くし稲体の活力を高め、適期・適量の穂肥ができる適切な稲姿に仕上げましょう。収量・品質・食味の3拍子揃った米づくりには、しっかり穂肥ができることが重要です。

例年この時期は梅雨と重なり中干しが不十分になることが懸念されますので、遅れずに中干しに入りましょう。

技、其の一 稲の生育量を見て作溝・中干しを！

作溝・中干しは、土壌中のアンモニア態窒素を減少させ無効分げつや節間伸長を抑制し、根を健全化し登熟及び品質を向上させます。また、収穫期までの効率的な水管理を行ううえでも重要な作業です。

作溝・中干し開始時期の目安は8葉期の有効分げつ決定期です。有効茎数の8割に達した圃場から速やかに中干しを実施しましょう（6月20日頃が開始目安）。有効茎数の8割に達していない圃場では引き続き日中の浅水管理と朝夕の灌漑で分げつの発生を促進しましょう。但し、中干しが遅れると葉色が低下せず籾数過剰・登熟不良につながります。田植えの遅れ等により生育の遅れが見られる場合でも遅くとも6月25日頃には実施しましょう。

中干し終了後は、走り水等で徐々に根を慣らしながら間断灌水に移行しましょう。**但し、気温18℃以下の低温時や強風時には直ちに深水とし、稲体を保護しましょう。**

◎品種別、土壌別、作溝・中干しの開始目安（有効茎数の8割）

品 種	1株当り茎数		作溝の間隔		中干しの程度
	70株/坪	60株/坪	壤土	埴土	
は え ぬ き	21本	24本	4～5 m	2～3 m	小ひびの入る程度 (白乾亀裂はさせない)
つ や 姫	18本	20本			
雪 若 丸	22本	26本			

ケイ酸資材の施用は、高温対策に有効です！稲体の活力維持のため積極的に施用しましょう！

※KSK28の施用時期：中干し後の入水時（出穂35～30日前） 1.4kg/10a

表1. 現在の生育状況（6月10日現在の生育診断圃データ）（）内は平年対比

品 種	草 丈	茎 数	葉 齢	葉色 (SPAD)
は え ぬ き	30.9 cm (105)	489 本/㎡ (146)	7.4 (+0.6)	39.7 (+2.2)
つ や 姫	33.4 cm (108)	337 本/㎡ (142)	7.3 (+1.0)	38.2 (+4.1)
雪 若 丸	25.7 cm (105)	418 本/㎡ (149)	7.2 (+0.5)	43.1 (+3.9)

表2. 6月20日時点の各品種別指標値（指標値を目安に作業を進めましょう。）

は え ぬ き…草丈33.0cm 茎数500本/㎡ 葉数8.3 葉色40.0
つ や 姫…草丈35.0cm 茎数460本/㎡ 葉数8.3 葉色39.0
雪 若 丸…草丈34.0cm 茎数520本/㎡ 葉数8.5 葉色44.0
ふくひびき…草丈38.0cm 茎数400本/㎡ 葉数8.0 葉色41.0
 飼料用米「ふくひびき」については、実需先より数量確保を望まれています。多収を目指してがんばりましょう！

技、其の二 こまめな圃場管理で病害虫を防除！

◎斑点米カメムシ類

カメムシの発生量はやや多いと予想されています。生息密度の低減を図るため、畦畔、灌排水路・農道法面など、こまめな草刈りを徹底しましょう。圃場内においてはヒエ・ホタルイ等の残草の除去と防除を徹底し、発生密度の低減に努め斑点米による落等を防ぎましょう。（除草対応については前号を参照）

◎いもち病

補植苗を圃場に放置するのは大変危険です。いもち病の発生源になりますので直ちに処分しましょう。特に山間部や風のよどむ場所、生育量の多いところや葉色が濃い圃場では発生が懸念されるため、薬剤防除を検討しましょう。

◎紋 枯 病

発生が懸念される圃場では、早めにモンガリット粒剤等の使用を検討しましょう。

※特別栽培米生産者の皆様へ

特別栽培米生産圃場では計画された薬剤以外は使用できませんので、圃場をよく見回り病害虫の発生が確認されたら必ず各営農課へご相談下さい。

●残留農薬等のポジティブリスト制度が施行されております。

ドリフトが原因で農産物が流通（出荷・販売）不可となった場合、農薬散布者の責任となります。防除の際は周辺作物に飛散しないよう風速・風向に注意しましょう。



暑い中の作業お疲れ様です。
熱中症には十分注意しましょう。

無人ヘリ防除が始まります。各種圃場旗を早急に設置しましょう。

大豆栽培のポイントは「中耕培土」

播種作業は概ね順調に進み、出芽揃いは比較的良好です。今後、梅雨の影響で雨の日が多くなると、排水不良田では湿害により生育が停滞し、雑草が繁茂して品質や収量に大きく影響を及ぼします。中耕培土は有効な除草方法であると同時に、有効な湿害対策でもあります。晴れ間を見て遅れずに作業を実施しましょう。

また、圃場を見回りネキリムシの被害が見られる場合は、「ネキリエースK」を3kg/10a(使用時期:大豆本葉2葉期迄)で防除しましょう。

1. 本葉3葉期頃の中耕培土（1回目）6月15日～25日頃（適期播種の場合）

①中耕は早め早めの実施が効果的です。

②除草剤の効果が切れて、雑草の発生が目立ってきたら、遅れずに実施しましょう。

2. 本葉6～7葉期頃の中耕培土（2回目）

7月5日～20日頃

①尿素を現物 10a 当り 10kg

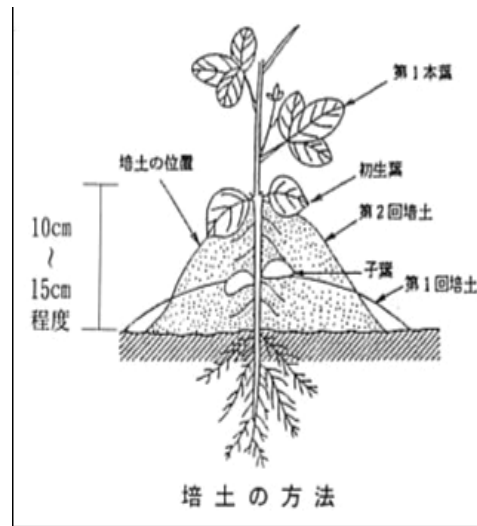
(N成分 4.6 k g) を施肥しましょう。

注) 基肥に一発肥料を施肥した場合は、①の追肥は不要です。

②追肥後、初生葉が隠れる位置まで、しっかり培土しましょう。

③ヒエ等のイネ科雑草(スズメノカタビラを除く)には、ワンサイドP乳剤またはポルトフロアブルを茎葉散布、または全面散布しましょう。
また、広葉雑草の発生が見られたら遅れずに大豆バサグラン液剤ナトリウム塩を散布しましょう。

（除草剤を散布する際は、隣接する作物への飛散に注意しましょう！）



無人ヘリコプターによる一斉防除が始まります！

今年も無人ヘリコプターによる一斉防除が6月下旬から始まります。

詳しい防除日程等は地域ごとにお知らせいたします。ご迷惑をおかけしないよう万全の対策を講じてまいりますので、何卒ご理解お願い申し上げます。

尚、お子様のいるご家庭におかれましては、無人ヘリコプターには絶対近づかないようお願いいただければ幸いです。

また、近年ドローンで個人防除を実施する生産者が散見されますが、安全な無人ヘリ防除作業をするために、ドローンを使用する方は最寄りの営農課までご一報下さるようお願いします。

JA 庄内みどり無人へり防除連絡協議会

やまがた米づくりナビ
適期作業カレンダーを活用
しましょう！



URL が更新
されました

圃場をタップ、
中干開始時期を
チェック！

※不明な点は JA 又は酒田農業技術普及課まで



《園芸情報》

薄皮ミニトマト「ピンキー」の管理について



今年度も4月よりミニトマトの栽培が始まりました。下記のポイントに注意して栽培を行いましょう。目標収量は夏秋栽培で10aあたり4tです。

1. 着果处理

着果促進のためブローアなどの振動受粉、高温期にはトマトーンを花房に散布し着果させます。トマトーンは生長点への散布や高温時に散布すると薬害を生じる恐れがあるため、希釈倍率に注意するとともに、生長点にかからないように注意し、気温の低い早朝もしくは夕方に行うようにしましょう。使用回数は1花につき1回です。

2. 灌水・換氣

急激に多量の灌水を行うと裂果の原因となるため、灌水は少量多回数で行うことを心掛け、土壌水分を変動させないようにすることが大切です。また、ハウス周辺に明渠を掘るなどし、雨天時にハウス内浸水が起きないようにしましょう。

病害発生防止のため、天候が雨でも1日1回は多湿回避の為にハウス内の換気を行ってください。

3. 追肥

第2花房開花が追肥開始の目安です。高温や着果数の増加により草勢は低下してくるため、追肥は液肥で窒素成分量 0.5～1 kg/10a を1週間間隔(メリット黄など)、または化成肥料で窒素成分量 3～4 kg/10a を2週間間隔(燐硝安加里 S604 など)で行うようにしましょう。追肥量は草勢に合わせて調整するようにお願いします。

4. 高温対策

ハウスの開口部や妻窓は全開にし、気温を下げましょう。遮光資材は、遮光率が低いもの(30~40%)を使用してください。※ダイオシートの使用は避けましょう。

5. 藥劑防除

害虫では、気温の上昇に伴ってアザミウマ類の被害が発生してきます。ハウスサイドや入口に防虫ネットを張っていても被害が発生する場合があります。花や果実などで発生が見られたら**モスピラン顆粒水溶剤**、または**ディアナSC**などで防除を行ってください。また、粘着板を花房近くに設置し、アザミウマの発生予察や捕殺に努めましょう。

病害では、梅雨期に入ると葉かび病・灰色かび病が発生しやすくなるので**カリグリーン**、または**ダコニール 1000**などで予防防除を実施しましょう。農薬は各園芸センターより防除暦が配布されているので、そちらを参照の上ご使用ください。

※農薬登録上、「トマト」と「ミニトマト」は別になりますので、必ず「ミニトマト」の登録農薬を使用してください。（「ミニトマト」は果実の直径3cm以下のもの）

※農薬を使用する場合は必ず容器のラベルを確認してから使用してください。

※農薬を使用する場合は収穫前日数を厳守して使用して下さい。

ご不明な点がございましたら、各園芸センターへお問い合わせください。

★次号の発行は7月2日(予定)です！